

NAFTAからUSMCAへ

- 2016年大統領選挙で勝利したドナルド・トランプ氏は就任前から**北米自由貿易協定（NAFTA）**（1994年発効）の見直しを主張し、2017年8月に**米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）**の交渉を開始した。
- トランプ氏は、米国の**環太平洋パートナーシップ協定（TPP）からの脱退**（2017年）も決定し、保護貿易主義への転換を進めた。

トランプ第1次政権（2016～2020年）

- ◆ USMCAは、米墨間では2018年8月27日に暫定合意。米加間でも9月30日に合意に至り、11月30日に署名された。2019年12月10日に一部内容を変更する改定議定書に署名。各国議会における批准承認を終え、2020年7月1日に発効。

バイデン政権（2021～2024年）

- ◆ メキシコ内での労働権侵害による米労働者の競争力低下を懸念し、USMCAで新設された「事業所特定の迅速な労働問題対応メカニズム（RRM）」を用いて事業所単位の調査を政府主導で開始することも含めて、メキシコ政府に労働権侵害を是正するよう相次いで要請した。

トランプ第2次政権（2025年～）

- ◆ 2024年の大統領選挙で勝利したトランプ氏は就任前からメキシコ、カナダからの輸入品に25%の追加関税を課すと公言しているが、実施については不透明。
- ◆ トランプ氏は2026年に予定されているUSMCAの見直しで、中国などの国がメキシコを経由して自動車部品を無税で輸出することを防ぐ文言を盛り込むとしている。2026年の見直しで参加3カ国が合意すれば、協定をさらに16年間継続すると定められている。